

助成対象事業成果報告書（概要版）

制度名	チャレンジド向け通信・放送役務提供・開発推進助成金
助成対象事業名	非同期対話機能による手話動画コールセンター向けサービスの提供
助成対象事業者名	株式会社 SOBA プロジェクト
助成金の額	6,393千円

【助成対象事業の全般について】

① 助成対象事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> - 今まで開発してきた「複数伝達モードを備えた電話リレーサービス」を拡張する。 - リアルタイムではなく、非同期のリレーサービスを開発することで、今までのサービスの用途の範囲を大幅に広げる。 - 聴覚障害者が日本語の記述によって各種窓口に問い合わせが難しかった状況を改善する。
② 助成対象事業の目標	非同期に送受信できる手話メールサービスの開発

【平成 30 年度実施部分について】

③ 助成対象事業の実施内容	今まで開発してきた電話リレーサービスを拡張し、聴覚障害者と聴者をつなぐ非同期のコミュニケーション手段を開発する。
④ 助成対象事業の成果	<p>○ 以下のような機能を開発した。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 電話リレーサービスの複数伝達モード（映像・手話・テキストチャット・ホワイトボード・スタンプなど）を使いながら話している様子を録画し、その内容をメールとして送信できるように拡張した。 - これら一連の動作は自動化し、メールは一旦、手話通訳者が受け取り必要に応じて日本語のテキストなどを付加すると、実際のメールの受取人のところに送信されるように実装した。メールの受取人も、前述の複数伝達モードで送信人に返信するが、そのメールも一旦、手話通訳者が受け取り、必要に応じて手話を付加することができるように実装を行った。 <p>○ 前述の開発により、次のような流れで、聴覚障害者が手話をメールとして送受信することができるようになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴覚障害者が電話リレーサービスを使ってメールするコンテンツを作成する。 2. コンテンツを含むメールは一旦、手話通訳者が受け取り必要に応じて日本語のテキストなどを付加すると、実際のメールの受取人のところに送信される。

		3. メールを受取人も、前述の複数伝達モードで送信人に返信するが、そのメールも一旦、手話通訳者が受け取り、必要に応じて手話を付加する。
⑤	補足説明事項	